

1)新規採用医薬品

医薬品名	効能・効果	用法・用量
ポブスカイン 0.25%注 25mg/10mL (塩酸レボブピバカイン) 長時間作用性局所麻酔剤(アミド型) 薬価:247 円/25mg10mL1 管 丸石製薬	＜効能効果・用法用量＞●術後鎮痛:手術終了時に、通常、成人に 6mL/時(15mg/時)を硬膜外腔に持続投与する。なお、期待する痛覚遮断域、手術部位、年齢、身長、体重、全身状態等により 4～8mL/時の範囲で適宜増減する。●伝達麻酔:通常、成人に 1 回 40mL(100mg)までを目標の神経あるいは神経叢近傍に投与する。複数の神経ブロックを必要とする場合でも、総量として 60mL(レボブピバカインとして 150mg)を超えないこと。なお、期待する痛覚遮断域、手術部位、年齢、身長、体重、全身状態等により適宜減量する。	
エボジン皮下注シリンジ 24000 (エポエチン ペータ(遺伝子組換え)) 遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤 薬価:12,429 円/1 キット 中外製薬株	＜効能効果＞貯血量が 800mL 以上で 1 週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血 ＜用法用量＞通常、ヘモグロビン濃度が 13g/dL 未満の患者には初回採血 1 週間前から、ヘモグロビン濃度が 13～14g/dL の患者には初回採血後より、成人には 1 回 24000 国際単位を最終採血まで週 1 回皮下投与する。初回採血は、予定貯血量が 800mL の場合は手術 2 週間前、1200mL の場合は手術 3 週間前を目安とする。なお、患者のヘモグロビン濃度や予定貯血量等に応じて投与回数や投与期間を適宜増減する。	
シルガード 9 水性懸濁筋注シリンジ 組換え沈降 9 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン(酵母由来) 薬価未収載 MSD	＜効能効果＞ヒトパピローマウイルス 6、11、16、18、31、33、45、52 及び 58 型の感染に起因する以下の疾患の予防●子宮頸癌(扁平上皮癌及び腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍(CIN) 1、2 及び 3 並びに上皮内腺癌(AIS))●外陰上皮内腫瘍(VIN) 1、2 及び 3 並びに陰上皮内腫瘍(VaIN) 1、2 及び 3●肛門癌(扁平上皮癌)及びその前駆病変(肛門上皮内腫瘍(AIN) 1、2 及び 3)●尖圭コンジローマ ＜用法用量＞9 歳以上の者に、1 回 0.5mL を合計 3 回、筋肉内に注射する。通常、2 回目は初回接種の 2 ヶ月後、3 回目は 6 ヶ月後に同様の用法で接種する。9 歳以上 15 歳未満の者は、初回接種から 6～12 ヶ月の間隔を置いた合計 2 回の接種とすることができる。	
ペンレステープ 18mg (リドカイン) 貼付用局所麻酔剤 薬価:33.20 円/30.5mm×50.0mm1 枚 マルホ	＜効能効果・用法用量＞●静脈留置針穿刺時の疼痛緩和:1 回 1 枚、静脈留置針穿刺予定部位に約 30 分間貼付する。●伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和:通常、小児には 1 回 2 枚までを、伝染性軟属腫摘除予定部位に約 1 時間貼付する。●皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和:通常、成人には 1 回 6 枚まで、小児には下記枚数までを、レーザー照射予定部位に約 1 時間貼付する。3 歳以下(2 枚)、4 歳～5 歳(3 枚)、6 歳～7 歳(4 枚)、8 歳～9 歳(5 枚)、10 歳以上(6 枚)	

2)仮採用医薬品

なし

3)剤型・規格 変更/追加 医薬品

剤型変更追加・メーカー変更薬	既採用薬	備考
ビソノテープ 2mg	ビソノテープ 4mg	追加

4)メーカー変更医薬品・後発品変更医薬品

医薬品名	既採用薬	備考
アルプロスタジル注 10 μ g シリンジ「サワイ」	リブル注 10 μ g	
ジピリダモール錠 25mg「トーワ」	ベルサンチン錠 25mg	販売中止
ジピリダモール錠 100mg「トーワ」	ベルサンチン錠 100mg	
アルブラゾラム錠 0.4mg「アメル」	コンスタン 0.4mg 錠	供給停止
ゾニサミド OD 錠 25mgTRE「SMPP」	トレリーフ OD 錠 25mg	
ピオグリタゾン錠 15mg「武田テバ」	アクトス錠 15	
シンバスタチン錠 5mg「あすか」	リボバス錠 5	
プリンゾラミド懸濁性点眼液 1%「サンド」	エイゾプト懸濁性点眼液 1%	
ケトプロフェンテープ 40mg「パテル」	モーラステープ L40mg	
ジクロフェナク Na ゲル 1%「ラクール」 50g	ボルタレンゲル 1% 50g	限定出荷
テルビナフィン塩酸塩外用液 1%「サワイ」 10g	ラミシール外用液 1% 10g	

5) 院外限定採用医薬品

医薬品名	備考
ロサーゼット配合錠 LD (エゼチミブ 10 mg・ロスバスタチン 2.5 mg) 高脂血症治療剤 薬価:69.10 円/1 錠 バイエル薬品	〈効能効果〉高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症 〈用法用量〉通常、成人には1 日 1 回 1 錠を食後に経口投与する。
ノルレボ錠 1.5mg (レボノルゲストレル) 緊急避妊剤 薬価未収載 あすか製薬	〈効能効果〉緊急避妊 〈用法用量〉性交後 72 時間以内にレボノルゲストレルとして 1.5mg を 1 回経口投与する。
スリンダ錠 28 (ドロスピレノン) 経口避妊剤 薬価未収載 あすか製薬	〈効能効果〉避妊 〈用法用量〉1 日 1 錠を毎日一定の時刻に白色錠から開始し、指定された順番に従い 28 日間連続経口投与する。以上 28 日間を投与 1 周期とし、29 日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。
アリッサ配合錠 (エストロール水和物・ドロスピレノン) 卵胞ホルモン・黄体ホルモン混合製剤 薬価:5,056.80 円/1 シート 富士製薬工業	〈効能効果〉月経困難症 〈用法用量〉1 日 1 錠を毎日一定の時刻にピンク色錠から開始し、定められた順に従って 28 日間連続経口投与する。以上 28 日間を投与 1 周期とし、出血が終わっているか続いているかにかかわらず、29 日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。
ル・エストロジェル 0.06% 80g (エストラジオール) 1 プッシュ(0.9g) :エストラジオール 0.54mg 含有 経皮吸収卵胞ホルモン剤 薬価:1560 円/80g1 本 富士製薬工業	〈効能効果・用法用量〉●更年期障害及び卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状(Hot flush 及び発汗):通常、成人に対し 2 プッシュを 1 日 1 回、両腕の手首から肩までの広い範囲に塗擦する。なお、症状に応じて適宜減量する。減量する場合は 1 プッシュを 1 日 1 回、両腕の手首から肩までの広い範囲に塗擦する。●生殖補助医療における調節卵巣刺激の開始時期の調整:通常、1 又は 2 プッシュを 1 日 1 回、21～28 日間、両腕の手首から肩までの広い範囲に塗擦し、投与期間の後半に黄体ホルモン剤を併用する●凍結融解胚移植におけるホルモン補充周期:通常、2～10 プッシュを 1 日 1 回、両腕の手首から肩、腹部、大腿部及び腰部の広い範囲に塗擦し、子宮内膜の十分な肥厚が得られた時点で、黄体ホルモン剤の併用を開始して妊娠 8 週まで本剤の投与を継続する。
ディビゲル 1mg (1 mg/1g/包) (エストラジオール) 経皮吸収卵胞ホルモン剤 薬価:34.30 円/1 包 オリオンファーマ	〈効能効果・用法用量〉●更年期障害及び卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状(Hot flush 及び発汗):通常、成人に対し 1 包を 1 日 1 回左右いずれかの大腿部もしくは下腹部に、約 400 cm ² の範囲に塗布する。●生殖補助医療における調節卵巣刺激の開始時期の調整:通常、1 包を 1 日 1 回、21～28 日間、左右いずれかの大腿部もしくは下腹部に、約 400 cm ² の範囲に塗布し、投与期間の後半に黄体ホルモン剤を併用する。●凍結融解胚移植におけるホルモン補充周期:通常、2～4 包を 1 日 2 回左右いずれかの大腿部もしくは下腹部に、1 包あたり約 400 cm ² の範囲に塗布し、子宮内膜の十分な肥厚が得られた時点で、黄体ホルモン剤の併用を開始して妊娠 8 週まで本剤の投与を継続する。
フェルビナクスチック軟膏 3%「三笠」 40g (フェルビナク) 経皮吸収型鎮痛・消炎剤 薬価:180 円/40g1 本 三笠製薬	〈効能効果〉下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎:変形性関節症、筋・筋膜性腰痛症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎(テニス肘等)、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛 〈用法用量〉症状により、適量を 1 日数回患部に塗擦する。

6) 院外限定移行医薬品

医薬品名	備考
キネダック錠 50mg	採用薬からの切替
ホスミン錠 500	
ツムラ真武湯エキス顆粒(医療用)	
アレビアチン錠 100mg	
セファドール錠 25mg	
リビディル錠 80mg	
ペリンドプリルエルブミン錠 4mg「サワイ」	
ジピリダモール錠 100mg「トーワ」	
5%サリチル酸ワセリン軟膏東豊	
プレドニン眼軟膏	
プロトピック軟膏 0.1%	
人工涙液マイティア点眼液	

7) 患者限定採用医薬品

医薬品名	効能・効果	用法・用量
アトーゼット配合錠 LD (エゼチミブ 10 mg・アトルバスタチン 10 mg) 高脂血症治療剤 薬価:66.20 円/1 錠 バイエル薬品	＜効能効果＞高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症 ＜用法用量＞通常、成人には1 日 1 回 1 錠を食後に経口投与する。	
ツムラ葛根湯加川きゅう辛夷エキス顆粒(医療用) 薬価:25.25 円/2.5g1 包 ツムラ	＜効能効果＞鼻づまり、蓄膿症、慢性鼻炎 ＜用法用量＞通常、成人 1 日 7.5g を 2～3 回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	
ベネシッド錠 250mg (プロベネド) 尿酸排泄薬 薬価:18.70 円/1 錠 科研製薬	＜効能効果・用法用量＞●痛風:通常、成人 1 日 0.5～2g を分割経口投与し、その後維持量として 1 日 1～2g を 2～4 回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。●ペニシリン・パラアミノサリチル酸の血中濃度維持:通常、成人 1 日 1～2g を 4 回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	
シンボニー皮下注 50mg オートインジェクター (ゴリムマブ(遺伝子組換え)) 生物学的製剤-TNF- α 阻害剤 薬価:103,628 円/50mg1 キット 田辺三菱製薬	＜効能効果・用法用量＞●関節リウマチ:○メトトレキサートを併用する場合:通常、成人には 50mg を 4 週に 1 回、皮下注射する。なお、患者の状態に応じて 1 回 100mg を使用することができる。○メトトレキサートを併用しない場合:通常、成人には 100mg を 4 週に 1 回、皮下注射する。●潰瘍性大腸炎:通常、成人には初回投与時に 200mg、初回投与 2 週後に 100mg を皮下注射する。初回投与 6 週目以降は 100mg を 4 週に 1 回、皮下注射する。	
ケプザラ皮下注 200mg オートインジェクター (サリルマブ(遺伝子組換え)) 生物学的製剤-抗 IL-6 抗体 薬価:46,785 円/200mg1 キット 旭化成ファーマ	＜効能効果＞既存治療で効果不十分な関節リウマチ ＜用法用量＞通常、成人には 1 回 200mg を 2 週間隔で皮下投与する。なお、患者の状態により 1 回 150mg に減量すること。	
サリグレンカプセル 30mg (セビメリン塩酸塩水和物) 唾液分泌促進薬 薬価:64.60 円/1 カプセル 日本化薬	＜効能効果＞シェーグレン症候群患者の口腔乾燥症状の改善 ＜用法用量＞通常、成人には 1 回 30mg を 1 日 3 回、食後に経口投与する。	
セパゾン錠 2 (クロキサゾラム) ベンゾジアゼピン系抗不安薬 薬価:6.00 円/1 錠 アルフレッサファーマ	＜効能効果・用法用量＞●神経症における不安・緊張・抑うつ・強迫・恐怖・睡眠障害、心身症における身体症候ならびに不安・緊張・抑うつ:通常成人 1 日 3～12mg を 3 回に分けて経口投与する。なお年齢・症状に応じ適宜増減する。●術前の不安除去:通常 0.1～0.2mg/kg を手術前に経口投与する。なお年齢・症状に応じ適宜増減する。	
ツートラム錠 25mg (トラマドール塩酸塩徐放錠) 麻薬拮抗性鎮痛薬 薬価:28.70 円/1 錠 日本臓器製薬	＜効能効果＞非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記における鎮痛:慢性疼痛、疼痛を伴う各種がん ＜用法用量＞通常、成人には 1 日 100～300mg を 2 回に分けて経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。ただし 1 回 200mg、1 日 400mg を超えないこととする。	
セレネース錠 0.75mg (ハロペリドール) ブチロフェノン系抗精神病剤 薬価:8.20 円/1 錠 住友ファーマ	＜効能効果＞統合失調症、躁病 ＜用法用量＞通常成人 1 日 0.75～2.25mg から始め、徐々に増量する。維持量として 1 日 3～6mg を経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	
ジプレキサ錠 10mg (オランザピン) セロトニンD ₂ パミン拮抗薬 薬価:178.50 円/1 錠 チェブラファーム	＜効能効果・用法用量＞●統合失調症:通常、成人には 5～10mg を 1 日 1 回経口投与により開始する。維持量として 1 日 1 回 10mg 経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、1 日量は 20mg を超えないこと。●双極性障害における躁症状の改善:通常、成人には 10mg を 1 日 1 回経口投与により開始する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日量は 20mg を超えないこと。●双極性障害におけるうつ症状の改善:通常、成人には 5mg を 1 日 1 回経口投与により開始し、その後 1 日 1 回 10mg に増量する。なお、いずれも就寝前に投与することとし、年齢、症状に応じ適宜増減するが、1 日量は 20mg を超えないこと。●抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐):他の制吐剤との併用において、通常、成人には 5mg を 1 日 1 回経口投与する。なお、患者の状態により適宜増量するが、1 日量は 10mg を超えないこと。	

8) 患者限定移行医薬品

医薬品名	備考
アルチバ静注用 2mg	採用薬からの切替
オキシコンチン TR 錠 40mg	
MS コンチン錠 30mg	
オプソ内服液 10mg	
フェントステープ 6mg	
フェントステープ 8mg	
ゾラデックス 3.6mg デボ	
ゾラデックス LA10.8mg デボ	
ゴナックス皮下注用 80mg	
ミルセラ注シリンジ 25 μ g	
ミルセラ注シリンジ 50 μ g	
ミルセラ注シリンジ 75 μ g	
ミルセラ注シリンジ 100 μ g	
ミルセラ注シリンジ 150 μ g	
ミルセラ注シリンジ 200 μ g	
ミルセラ注シリンジ 250 μ g	
ワイスタール配合静注用 1g	
ハイカリック RF 輸液	
ネオアミュー輸液	
オーツカ MV 注	
フィコンパ [®] 細粒 1%	
ゾニサミド OD 錠 25mgTRE「SMPP」	
エビリファイ錠 6mg	
セレネース錠 1mg	
プレミネント配合錠 LD	
メチルジゴキシン錠 0.1mg「NIG」	
マグコロール散 68%分包 100g	
チモプトール XE 点眼液 0.5%	

9) 削除医薬品

医薬品名	備考
リブル注 10 μ g	アルプロスタジル注 10 μ g シリンジ「サワイ」に切替
キシロカイン注 [®] リアンブ 0.5% 5mL	使用実績なし
アミサリン注 100mg	出荷停止
ビクトーザ皮下注 18mg	製造中止予定 使用患者 1 名
破トキ「ビケン F」	沈降破傷風トキシイド「生研」流通再開
ヒルトニン 0.5mg 注射液	限定患者終了
パナルジン錠 100mg	製造中止
ツムラ香蘇散エキス顆粒(医療用)	使用実績なし
リオナ錠 250mg	限定患者終了
リーマス錠 200	限定患者終了
レボトミン錠 25mg	限定患者終了
エバミール錠 1.0	限定患者終了
ペルサンチン錠 25mg	ジビリダモール錠 25mg「トーワ」に切替
ペルサンチン錠 100mg	ジビリダモール錠 100mg「トーワ」に切替
コンスタン 0.4mg 錠	アルプラゾラム錠 0.4mg「アメレ」に切替
トレリーフ OD 錠 25mg	ゾニサミド OD 錠 25mgTRE「SMPP」に切替
アクトス錠 15	ピオグリタゾン錠 15mg「武田テバ」に切替
リポバス錠 5	シンバスタチン錠 5mg「あすか」に切替
オルセノン軟膏 0.25%	出荷停止
エイグプト懸濁性点眼液 1%	ブリンゾラミド懸濁性点眼液 1%「サント」に切替
モーラステープ L40mg	ケトプロフェンテープ 40mg「パテル」に切替
ボルタレンゲル 1% 50g	ジクロフェナク Na ゲル 1%「ラクール」 50g に切替
ラミシール外用液 1% 10g	テルビナフィン塩酸塩外用液 1%「サワイ」 10g に切替
大塚生食注 細口開栓 500mL	生理食塩液 PL「フソー」ダブル開栓 500mL あり

10) がん化学療法レジメン追加について

なし

11) その他

患者限定解除 : ベルソムラ錠 10mg、エルシトニン注 40 単位、生理食塩液 PL「フソー」2L バッグ

復活採用 : ギフルーザ錠 20mg

救急時間外常備薬 : サルタノールインヘラー100 μ g⇒メブチンエアー10 μ g 吸入 100 回に切替、
リマプロストアルファデクス錠 5 μ g「サワイ」、ボルタレンサボ 12.5mg を削除

12) 効能効果等の改訂のお知らせ (2025.9～2025.11)

コートリル錠 10mg ソル・コーテフ注射用 100mg	多発性硬化症(視束脊髄炎を含む)の効能効果削除
アネメトロ点滴静注液 500mg	嫌気性菌感染症、感染性腸炎、アメーバ赤痢に対する 小児の用法等追加

13) 禁忌・併用禁忌・使用上の注意の改訂のお知らせ (2025.9～2025.11)

エリキュース、リクシアナ、イグザレルト ブラザキサ、ワーファリン	【重大な副作用】「脾破裂に至る脾臓出血」追記
アミティーザ	【重大な副作用】「アナフィラキシー」追記
エストリール、ホーリン、メノエイドコンビ、 エストラーナ、ディビゲル、ル・エストロジェル、 プレマリン	【その他の注意】「HRT と乳癌発生との因果関係については明らかではないが、次のような報告がある。閉経後女性を対象とした大規模な疫学調査のメタアナリシスの結果、閉経期ホルモン補充療法(MHT)として卵胞ホルモン剤を単独投与又は卵胞ホルモン剤と黄体ホルモン剤を併用した女性は、乳癌になる危険性が MHT の期間とともに高くなり(調整リスク比[95%信頼区間]は 1～4 年間の卵胞ホルモン剤と黄体ホルモン剤併用:1.60[1.52-1.69]、卵胞ホルモン剤単独:1.17[1.10-1.26]、5～14 年間の卵胞ホルモン剤と黄体ホルモン剤併用:2.08[2.02-2.15]、卵胞ホルモン剤単独:1.33[1.28-1.37])、MHT 非使用者に対する調整リスク比は MHT 過去使用者より MHT 現使用者の方が高かった。また、MHT 過去使用者において、投与中止後も過去の投与期間に依存して乳癌になる危険性が 10 年以上持続する場合があるとの報告がある」追記
シングリックス	【重大な副反応】「ギラン・バレー症候群 四肢遠位から始まる弛緩性麻痺、腱反射の減弱ないし消失等の症状があらわれることがある」追記

14) 院内副作用報告 (2025.9～2025.11)

【当院処方事例のみ記載】

レボフロキサシン	皮疹
----------	----